

日本リハビリテーション医療デジタルトランスフォーメーション学会 第2回学術集会

大阪医科薬科大学医学部リハビリテーション医学教室 佐浦隆一

日本リハビリテーション医療デジタルトランスフォーメーション (DX) 学会第2回学術集会 (千葉県千葉リハビリテーションセンター, 菊地尚久大会長) は「リハビリテーション×医療 DX～リハビリテーション医療の革新的イノベーション」をテーマに第1回石垣島大会とは違ってかわって (トランスフォームして), 7月13日～14日に幕張メッセ国際会議場で開催されました。

「ひとりの人間にとっては小さな一歩だが, 人類にとっては偉大な飛躍だ。」とアポロ11号アームストロング船長が1969年, 月への一歩を記したときに残した言葉と同じく, 菊地尚久大会長は「10年後を見通したサービスや製品の社会展開 (実装) = 革新的イノベーションを創出するためのチャレンジングあるいはハイリスクな研究開発・挑戦への第一歩を記すための学術集会にしたい。」と高らかに宣言され, 学術集会は始まりました。

「デジタル技術を社会に浸透させて人々の生活をより良いものへと変革すること」と定義されるDXは, 特にコロナ禍以降, 医療・介護・福祉業界でも人口に膾炙されるようになりましたが, その内容は単なるデジタル化から真のDXまで千差万別, まだまだDXの本質が理解され, 広く浸透しているとは言い難いと個人的には感じています。だからこそ, リハビリテーション医療DX



日本リハビリテーション医療デジタルトランスフォーメーション学会第2回学術集会ポスターと懇親会で挨拶される菊地尚久大会長

の本質を真摯に探求する本学会の活動 (学術集会や研修会の開催, 学術誌「リハビリテーション医療DX研究」の発刊) に大いに期待しています。

第3回学術集会 (北陸大学医療保健学部理学療法学科 大工谷新一大会長) は2025年7月19日～20日, 「デジタル技術のヘルスケア・リハビリテーションへの応用」をテーマに石川県金沢市で開催されます。来年はぜひ, 金沢の地に革新的イノベーション (DX) の第一歩を記しにお越しく下さい。

第11回日本ボツリヌス治療学会学術大会

島根大学医学部リハビリテーション医学講座 酒井康生

第11回日本ボツリヌス治療学会学術大会が2024年9月15日 (日)・16日 (月・祝) に東京・砂防会館で開催され, 「“治らない” から “治る” ボツリヌス治療を目指して」をテーマに約280人が参加しました。

会長講演では梶籠児会長 (徳島大学特任教授) が, 日本におけるボツリヌス治療の歴史と導入の経緯についてユーモアを交えて解説されました。国際シンポジウムでは, Giampietro Schiavo 先生がボツリヌス毒素がタウオパチーに関連するタウの放出を抑制する可能性について紹介され, 新たな治療応用への期待が高まりました。国内シンポジウムでは, 青柳陽一郎先生が輪状咽頭筋弛緩障害や食道アカラシアへの治療効果を報告され, 他の講師からも片頭痛や本態性振戦, 書痙などへの適応拡大と有効性が紹介されました。また, 川手信行先生は回復期リハビリテーション病棟における診療報酬制度の課題を指摘され, 参加者から共感を集めました。

今大会では, 眼科, 耳鼻咽喉科, 皮膚科, 歯科など幅



会長講演の様子



学会看板

広い分野の医師がボツリヌス治療を通じて交流し, 専門分野を超えた学びと連携が深まるよい機会となりました。

次回大会 (高知大学医学部附属病院耳鼻咽喉科 兵頭政光会長) は2025年9月20日～21日に「ボツリヌス治療: 知と技の探求」をテーマに, 東京・学術総合センターで開催予定です。ボツリヌス治療のさらなる発展が期待されます。